



加治区自治会の取り組み ①

今月から3回、活発な活動が評価されている加治区自治会の取り組みをご紹介します。自治会活動のあり方を考えていきます。

「案内人」 田原市総代会地域コミュニティ研究会オプザーバー

鈴木誠さん（岐阜経済大学経済学部教授）



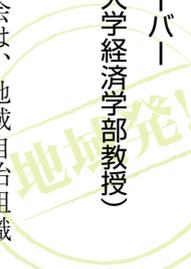
▲盆踊り大会[8月]



▲ソフトボール大会[6月]



▲通常総会[4月]



田 原市総代会は、地域自治組織の活性化を目指して、平成21年10月に地域コミュニティ研究会を設置しました。その会議の席上、玉越恒夫委員から報告された加治区自治会の活動内容について、特徴的な面をご紹介します。

加治区自治会の概要

衣笠校区に属する加治区は、人口約1600人・約460世帯、中心市街地の南西部から渥美農業高校周辺までを区域とする比較的大きな自治会です。

昨年4月には県森林協会から里山整備の表彰を受けたほか、ここ数年、県防災モデル地区や市コミュニティモデル地区などに選定されています。また、平成17年から国土交通省のまちづくり交付金事業、平成20

■加治区の位置



年から県里山再生整備モデル事業や森と緑づくり税公募事業に採択されるなど、地域主導の地域づくりが実践されています。

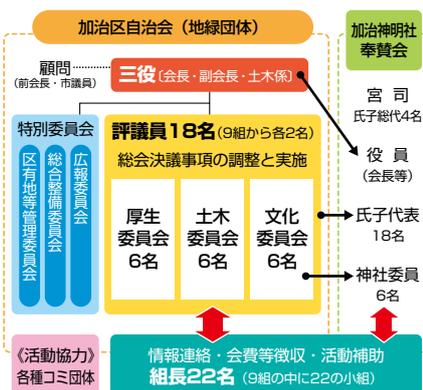
県下でも注目される円滑な運営の秘訣は、①みんなで役割分担する組織体制 ②豊富な行事と地域団体の活動で育まれていく連帯感 ③活動目的の明確化と意見の吸い上げにあるといえます。

充実した組織体制

役員が一年で交代する自治会が多い中で、加治区では、区民の選挙で土木係に選出されると、翌年は副会長に上がり、三年目に会長に就任する流れが来ています。代表者が複数年にわたり活動に関わることで、課題解決の継続性や改革の実効性が確保されています。

また、会長など役員のほか、協議と執行の機能を持つ18名の評議員が3部会に分かれて事業を担当し、個

■みんなで役割分担する組織体制



（次回は自治会活動の目的と内容をご紹介します。）

十分な意見交換の機会

別の課題には「区有地等管理」「総合整備」「広報」などの特別委員会や「自主防災会」が、長期任期で継続的に活動しています。そして、自治会運営の連絡調整役を22名の組長が担っています。

さらに、人手を必要とする事業の際には、自治会内の消防団・子ども会・老人会などの各種団体による協力体制が確立されています。

こうした組織を機能させるため、定期総会、毎月の評議員会と組長会・各特別委員会、各種団体長会議の開催に加え、年数回行われる区民総出の親睦行事の機会に、自然な形の意見交換が行われています。